

## 答 辞

やわらかな陽射しに春の訪れを感じる今日の佳き日に、私たち卒業生のために、コロナ禍の中でも素晴らしい式典を挙行していただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

入学してから今日までのことを振り返ると、新生活への不安と期待を抱き、校舎へと足を踏み入れたあの日のことを、今でも昨日のことのように思い出します。入学式のないまま迎えた初めての授業、今まで経験したことのない遠隔での授業に不安と戸惑いを感じながら学生生活がスタートしました。

私の所属する食物栄養学科では、栄養士免許の取得に向けて二年間を通して調理実習や栄養学、病理学などの講義や実験、実習を行い、日々勉学に励みます。

二年生になると実際に病院や福祉施設などでの校外実習を行います。しかし、コロナ禍ということで希望する施設に受け入れてもらえなかったり、何度も実習の予定が延期になるなど、先の見えない状態です。でも不安を感じました。私が校外実習に行くことができたのは、当初の予定から半年先の十二月でした。たった一人で実習に向かうことへの緊張で胸が押しつぶされそうになりました。そんなとき、先生方は親身になってアドバイスをしてくださいました。その言葉は、とても大きな心の支えになりました。また、友人はたくさんアドバイスと励ましの言葉をかけてくれました。楽しい時や辛い時を一緒に過ごしてくれた仲間は何ものにもかえがたい大切な存在だと感じました。

また、施設での実習では、学校では学べないことを多く学びました。現場の栄養士の先生は、利用者の方それぞれに合った食事の内容や方法を考えられていると教えてくださいました。実習を通して、私は将来、食べてもらう人のことを第一に考え、おいしいと言ってもらえる食事を提供できる栄養士になりたいと強く思いました。

これから私たちは別々の道歩んでいくこととなります。新しい環境のなかで辛いことや、悩むこともたくさんあると思います。そんな時は、これまで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、東雲で学んだことに誇りを持って、立ち止まることなく前に進んでいきたいと思えます。二年間、短いようで長い時間を沢山の仲間と共に笑いあいながら過ごせたことをとても嬉しく思います。

最後に、学長先生をはじめ、先生方、職員の皆様、地域の皆様、そして、支えてくれた家族に心から御礼申し上げます。後輩の皆様方のご活躍と松山東雲短期大学のますますのご発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

二〇二二年三月十一日

松山東雲短期大学 卒業生代表 谷崎 梨々花